

地方の「两会」からみる 2017 年の中国経済

～ 17 年も成長減速が続く可能性 ～

王 雷軒

要旨

2016 年の成長率は前年比 6.7%と政府目標の範囲内に収まった。しかし、17 年の中国経済を取り巻く環境は依然厳しいと見られるため、景気テコ入れ策がなければ 16 年より減速する可能性はあると思われる。各地方の成長目標を確認すると、17 年の中国経済は大幅な減速を想定していないものの、16 年より小幅ながら鈍化する可能性がうかがえる。

「两会」とは

国全体に関する政策は通常毎年 3 月上旬の 全国人民代表大会（全人代、日本の国会に相当する）で決定されるが、同時に共産党や共産党以外の 党派など からなる 人民政治協商会議（政協）も開催される。全人代と政協は、併せて「两会」と呼ばれている。政協は議決権を持たないが、全人代と同様に政府活動報告、予算や決算報告などを審議することができる。

1 月中に地方两会 が相次いで開催

全国「两会」が開催される前に、多くの地方（省・直轄市・自治区）「两会」が 1 月中に開かれる。そこに各地方の前年の経済成長の実績などを踏まえたうえで、今年の成長目標や主な取り組み課題をまとめた政府活動報告である「政府工作報告」を公表する。

17 年の中国経済を展望するうえで地方两会が非常に重要であるため、以下では 16 年の中国経済を簡単に振り返ってから、地方两会で公表された政府工作報告をもとに地方別の 16 年の成長目標の達成状況や特徴を述べたうえで、最後に 17 年の成長目標の特徴や注目点を示しながら、17 年の中国経済を展望してみたい。

予想通り、16 年の 実質 GDP 成長率は 前年比 6.7%

16 年 10～12 月期の実質 GDP 成長率は前年比 6.8%（以下は前年比）と、1～3 月期（6.7%）、4～6 月期（6.7%）、7～9 月期（6.7%）から僅かに高まった。これを受けて 16 年の成長率は 6.7%と政府目標（6.5～7%）の範囲内に収まった。しかしながら、16 年の成長目標は達成されたとはいえ、15 年（6.9%）から成長が鈍化したことは事実である。

16 年を振り返ってみると、好調な自動車販売などで支えられた個人消費が堅調に推移したものの、総資本形成に相当する固定資産投資が 8.1%と、99 年以来の低い伸びに留まったことが成長鈍化の主因である。

16年には20の地方が成長目標を達成した

さて、図表1に示した各地方の16年の成長実績などをみると、その特徴はつぎの通りである。16年は15年より成長目標を引き下げたこともあり、北京市、天津市など20の地方は成長目標を達成した。特にチベット自治区、重慶市、貴州省の成長率はそれぞれ11.5%、10.7%、10.5%と、依然二桁の成長を続けた。

国全体の成長率である6.7%を上回る地方が24あった。一方、北京市は6.7%、黒竜江省、山西省はそれぞれ6.1%前後、4.5%前後で国全体の水準以下であった。

一方、河北省、山西省、遼寧省、湖北省などの8つの地方では、成長目標を達成できなかった。遼寧省は成長率などが未公表だが、公表済みの地方では、山西省が実績と目標の差が1.5%と最も大きかった。その次は湖北省で1%であった。

石炭を多く産出する山西省について石炭の過剰な生産能力の解消が目標の未達成につながったと指摘されたほか、湖北省は民間投資の大幅な減速を食い止めることができなかったことが、成長目標の未達成の大きな要因であると強調した。

9つの地方は3兆元以上の経済規模になる見込み

地方別に名目GDP額をみると、15年に3兆元（約5千億米ドル）を超えた地方は広東省、江蘇省、山東省、浙江省、河南省、四川省と6つあったが、16年には湖南省、湖北省、河北省も加わり、9つとなる見込みだ。16年も、経済規模が最も大きな地方は広東省であり、7.95兆円で、28年連続でトップである。これら9つの地方GDP総計が中国経済の半分を占めていることもあり、今後もその動向を注目したい。

推計上、16年も地方のGDP総計が国全体を上回る

16年の地方のGDP総額について、名目GDP額がまだ公表されていない山西省、吉林省などでは、15年の名目GDP額×16年の成長率（実績値および予測値）に基づき推計、さらに、遼寧省には15年の名目GDP額を16年に当てはめ推計したところ、国全体のGDP規模を上回っていることが判明した。

その背景には遼寧省のように水増しがあると見られるほか、以下の3点を指摘しておきたい。地方のGDPは産業別の生産額から中間コストを差し引いたものであるが、地域をまたがる生産活動から生まれた付加価値がどの地方に帰属するかの判断は困難で、重複計上される可能性がある点、地方によって物価水準が異なるため、どのデータを利用するかによって地方のGDP額が違ってくる点、地方では、国全体が把握していない個人自営業者などの生産活動を集計する可能性がある点、が挙げられる。

16年と比べ、17年の成長目標を引き下げた、横ばいに設定された地方が多い

注目のポイント：
遼寧省の経済は立て直せるか

17年の中国経済は

16年と比べ、各地方の17年の成長目標に「前後」、また「以上」がつく設定が目立つ。地方経済を取り巻く環境の不確実性が強まりつつあることを反映していると思われる。遼寧省、四川省、チベットなどの地方では、17年の成長目標が16年より引き上げられた一方、多くの地方は成長目標の引き下げ、また16年と同水準の目標設定を行った。その背景には、中央政府が過剰な生産能力解消などサプライサイドの構造改革を引き続き推進することに加えて、経済成長のスピードより大気汚染の改善、貧困人口の撲滅などに注力していることが挙げられる。

この動きは国全体の成長が小幅鈍化する可能性を示唆するが、中国の経済規模(16年に約11兆米ドル)が大きく増大しているなか、成長より経済の質や効率を追求しなければならない方針を踏まえると、各地方の成長目標の設定は評価されるべきであろう。

むろん、経済発展の段階が異なるため、西部地区と中部地区の一部の地方では高速鉄道や空港などのインフラ整備が相対的に遅れていることもあり、17年の成長目標を16年から引き上げることが必要であった。

さて、遼寧省は17年に6.5%前後の成長目標を掲げている。同省長は同省の管轄市・県が11～14年の経済データを捏造したことを明らかにした。役人が経済データを作り出し、経済データが役人を出世させる(官出数字、数字出官)という間違っただけの考え方のもとで行われていたという。同省の16年の成長がマイナスに陥る可能性もあるなか、果たして17年の成長目標は達成できるのだろうか。

省長は、16年に環境規制を受けて1.1万社の企業が操業停止したが、17年には環境基準をクリアした0.8万社の企業が生産開始できる見込み、830の工業プロジェクト(1項あたり0.5億元の投資)が完成しており、これから稼働できること、公共工事を拡大すること、不動産の在庫消化を進めながらも、特色のある郷鎮を建設すること、などを通して成長を取り戻すとの決意を表明した。

しかし、多くの国有企業を抱えている同省は、国有企業改革を進めるほか、優秀な人材を利用しながら新しい産業を徐々に育成していかなければ、一時的に人為的に成長を押し上げてても自律的な成長回復は困難であろう。

17年の中国経済を展望すれば、鉄鋼および石炭のほか、船舶・

さらに減速する可能性がある

セメント・板ガラス・電解アルミなどの過剰な生産能力が一部地方で解消されていくなど経済構造の調整を引き続き推進する方針だが、それを補完するような新しい産業が育っておらず、民間投資の低迷や不動産開発投資の抑制が続くと見込まれるなど、中国経済を押し下げる国内要因は少なくない。

加えて、通商問題や為替レート政策などをめぐってトランプ米大統領が強硬な対中政策をとれば、中国経済には逆風となりかねない。そのため、景気テコ入れ策の実施がなければ17年の経済成長が16年よりさらに鈍化する可能性があると思われる。

(17.1.25 現在)

図表1 地方別(省級)の16年の成長実績および17年の目標設定

地区	地方	16年の名目GDP (兆元)	16年の成長実績 (予測値も含む)	16年の成長目標	17年の成長目標
	国全体	74.41	6.7%	6.5～7%	3月公表予定
東北地区	吉林	1.57	6.9%	6.5～7%	7%前後
	黒竜江	1.60	6.1%前後	6～6.5%	6～6.5%
	遼寧	未発表	未発表	6%前後	6.5%前後
東部地区	北京	2.49	6.7%	6.5%	6.5%前後
	天津	1.79	9%	9%	8%
	河北	3.18	6.8%前後	7%前後	7%前後
	上海	2.75	6.8%	6.5～7%	6.5%前後
	江蘇	7.61	2月公表予定	7.5～8%	2月公表予定
	浙江	4.65	7.5%前後	7～7.5%	7%以上
	福建	2.84	8.5%前後	8.5%	8.5%前後
	山東	6.70	2月公表予定	7.5～8%	2月公表予定
	広東	7.95	7.4%以上	7～7.5%	7%以上
	海南	0.40	2月公表予定	7～7.5%	2月公表予定
中部地区	山西	1.34	4.5%前後	6%前後	5.5%前後
	安徽	2.41	8.7%	8.5%前後	8.5%前後
	江西	1.84	9%	8.5%以上	8.5%前後
	河南	4.02	8%(予想)	8%前後	7.5%以上
	湖北	3.23	8%	9%前後	8%前後
	湖南	3.12	8%前後	8.5%前後	8%前後
西部地区	内モンゴル	1.86	7.3%前後	7.5%	7.5%前後
	広西	1.82	7.3%前後	7.5～8%	7.5%前後
	重慶	1.76	10.7%	10%前後	10%前後
	四川	3.27	7.5%	7%以上	7.5%前後
	貴州	1.17	10.5%	10%	10%
	雲南	1.49	8.5%前後	8.5%前後	8.5%前後
	チベット	0.11	11.5%	10%以上	11%以上
	陝西	1.92	7.6%前後	8%前後	8%前後
	甘肅	0.72	7.6%	7.5%	7.5%
	青海	0.26	8%前後	7.5%前後	7.5%前後
	寧夏	0.32	8%以上	7.5%	8%前後
	新疆	0.96	7.6%	7%前後	7%以上

(資料)各地方政府が発表した「政府工作報告」をもとに作成、(注)「_」は筆者の推計値。